



第14回 日本褥瘡学会中国四国地方会

プログラム・抄録集

会期 ◆ 2014年 **3月2日** 日

会場 ◆ **米子コンベンションセンター**

〒683-0043 鳥取県米子市末広町294

会長 ◆ **中山 敏** 鳥取大学医学部附属病院形成外科

第14回日本褥瘡学会中国四国地方会運営事務局

有限会社 アクティブ・プロ

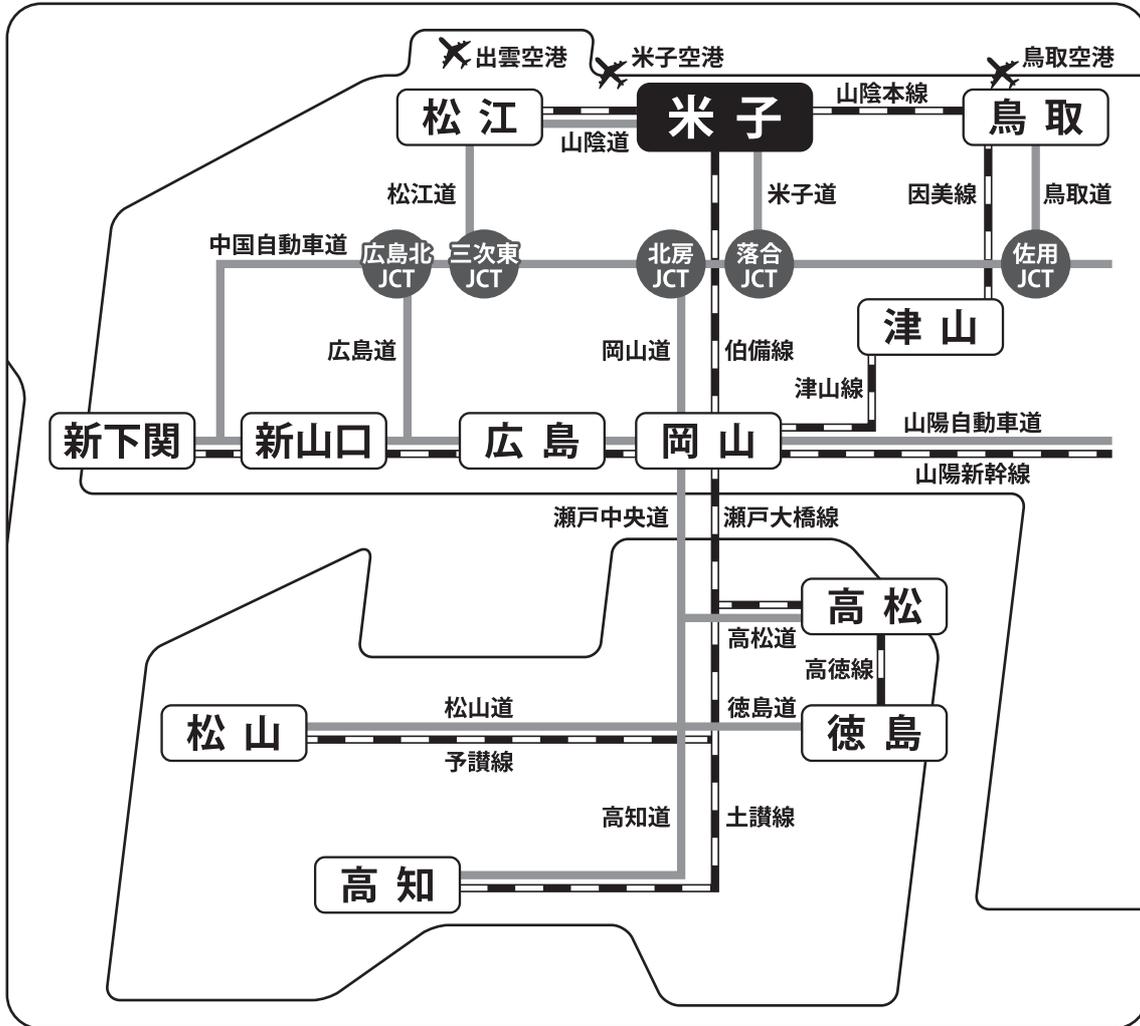
〒683-0851 鳥取県米子市夜見町1895-3

TEL: 0859-48-0700 FAX: 0859-48-0600

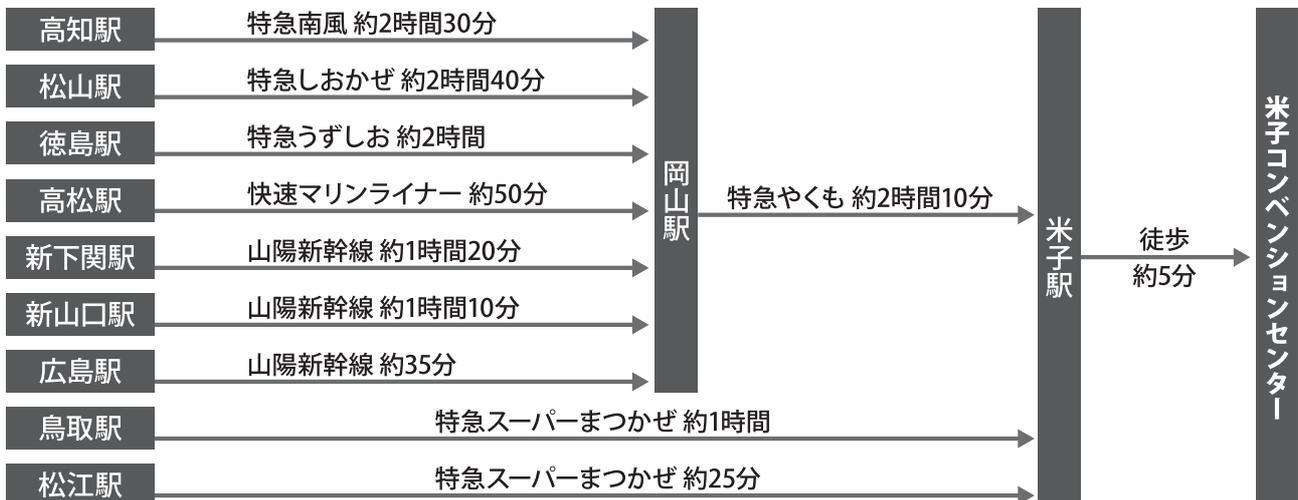
E-mail: jspu14@act-p.net

交通のご案内

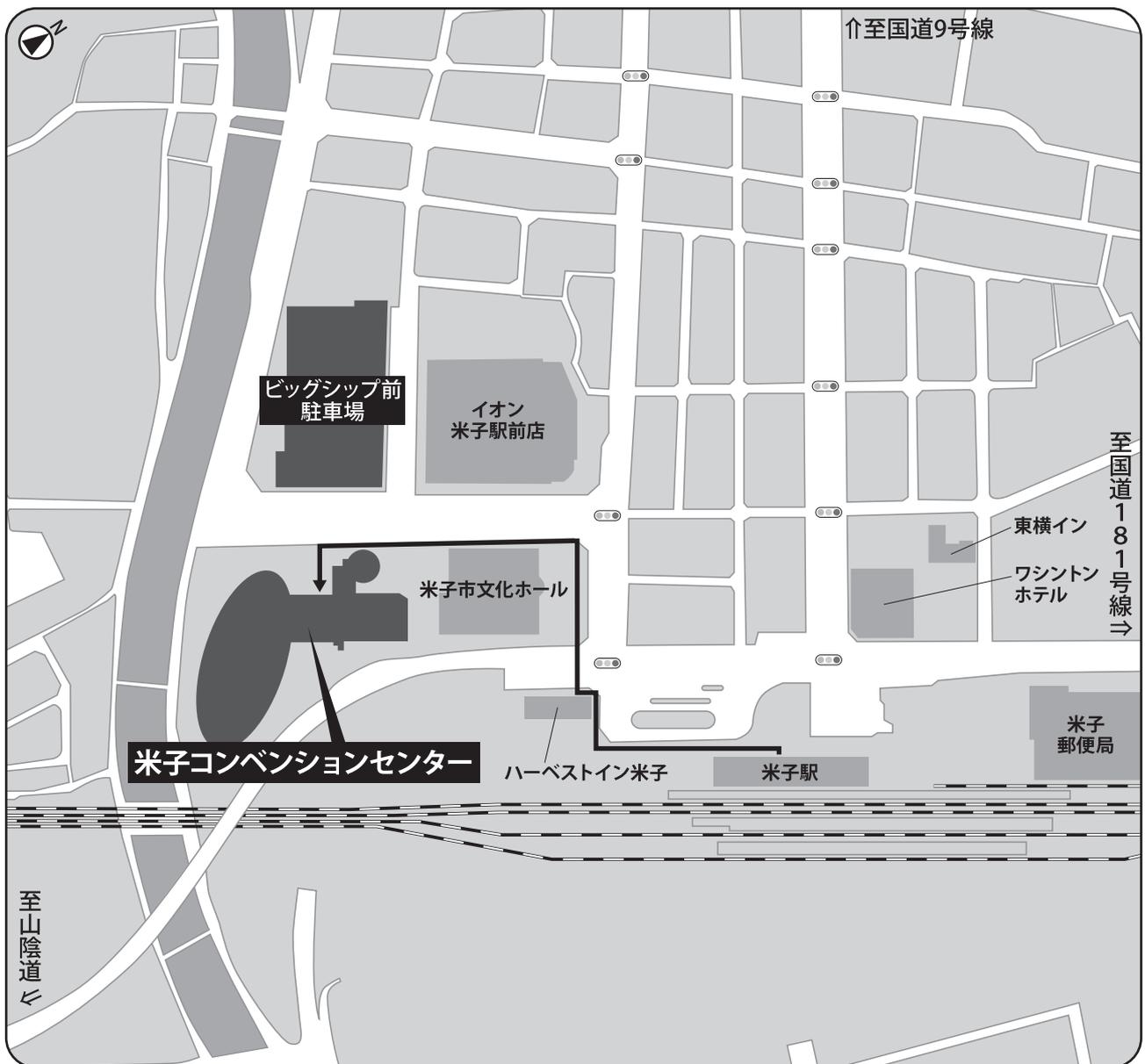
- **会場** 米子コンベンションセンター
〒 683-0043 鳥取県米子市末広町 294
TEL : 0859-35-8111 FAX : 0859-39-0700
<http://www.bigship.or.jp/>



JRでの所要時間



●米子コンベンションセンターへのアクセス

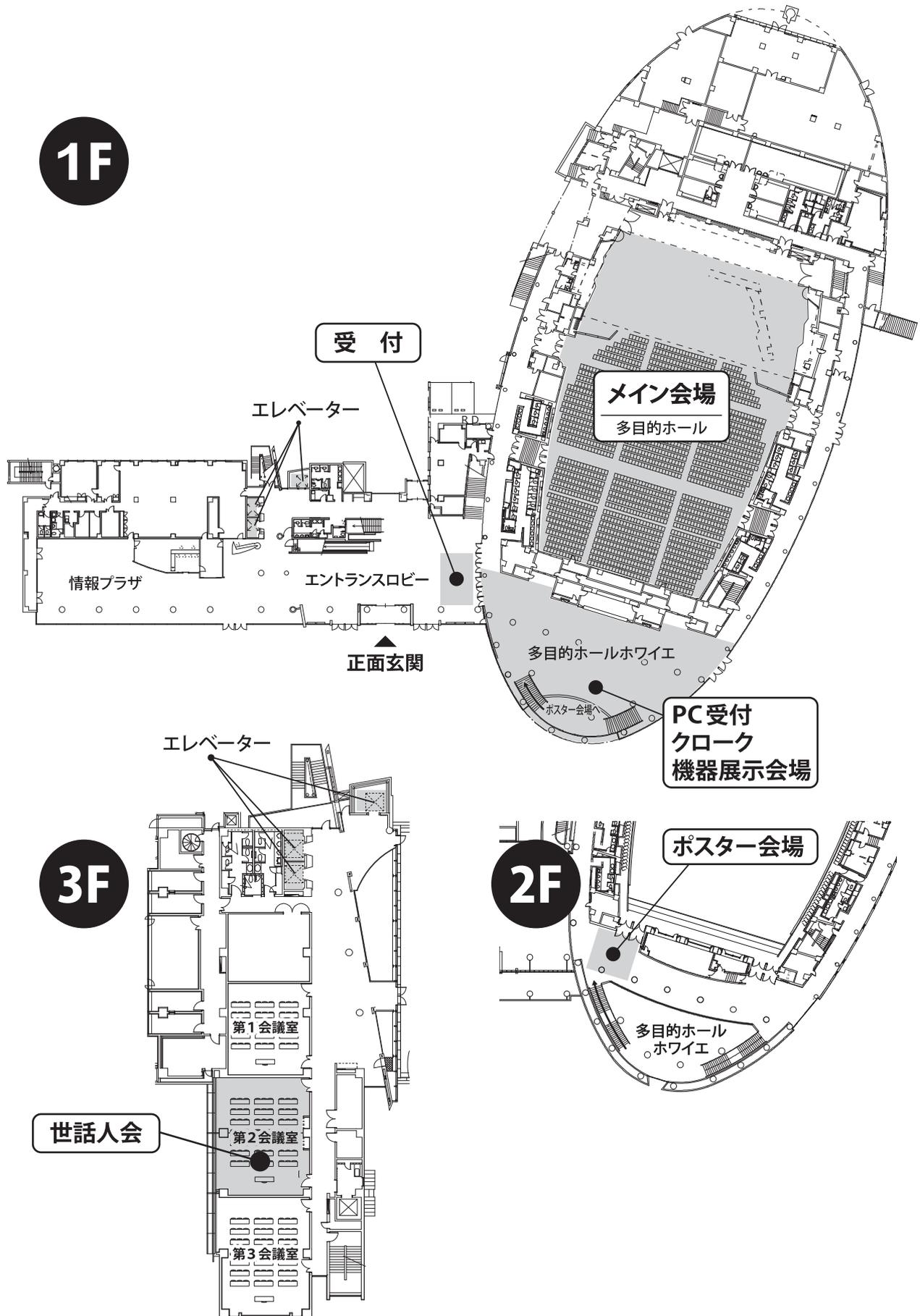


駐車場のご案内

ビッグシップ前駐車場（米子駅前簡易駐車場）に駐車された方は駐車券をご持参いただき、会場内に設置いたします割引認証機にお通しください。開催時間内は駐車料金が無料になります。

※その他の近隣有料駐車場の割引は適用されません。

会場案内図



第14回日本褥瘡学会中国四国地方会運営要綱

1) 受付

米子コンベンションセンター 1F エントランスホールの当日参加受付にて7時30分
から行います。

2) 参加登録

1. 当日参加費

会 員	4,000円
非会員	5,000円
学 生	1,000円

2. 参加登録票と引き換えにネームカードをお渡しいたします。ネームカードに所属・
氏名をご記入ください。ネームカードのない方のご入場はお断りいたします。
事前登録をされた方にはプログラム・抄録集とネームカードをお送りしておりま
す。当日は必ずご持参の上ご着用ください。
ネームホルダーは、受付にて参加登録票と引き換えにお渡しいたします。

3) 一般演題発表〈口演〉

1. 発表時間は5分、討論時間は3分(時間厳守)です。
2. 次演者は、前演者の登壇後ただちに「次演者席」にご着席ください。
3. スライドの受付はしておりませんので、ご了承ください。PC発表のみとなります。

4) 討 論

1. 質問、コメントの採否は座長にお任せください。
2. 発言者は所定のマイクの近くにあらかじめ立ち、発言に先立って所属・氏名を明
らかにしてください。
3. 発言は簡潔にお願いいたします。

5) PC プレゼンテーション

1. 発表データはUSB フラッシュメモリまたは、CD-Rにてご持参願います。
発表当日の当該セッションの開始30分前までに必ずPC受付にて試写をお済ませ
ください。なお、発表データの形式・バージョンにつきましては以下の内容でお
願いたします。

Microsoft PowerPoint (2003～2013) (Windows版)の日本語版に限定します。

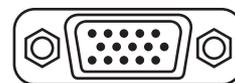
また、使用するフォントについては、Windows7標準で装備されているものでお願
いたします。

(MS明朝、MSゴシック、MSP明朝、MSPゴシック等)

MacintoshはPC本体の持込のみで対応致します。

モニター出力端子はミニD-sub15ピンに限定いたします。

ミニD-sub15ピン以外の変換ケーブルが必要な機種をご
使用の方は、変換ケーブルをご持参ください。必ず電源
アダプターもご持参ください。



ミニ D-sub15ピン
コネクタ形状

2. 動画をご使用の場合、動画ファイルは wmv 形式で、PowerPoint データと同じフォルダー内に動画ファイルを作成し、リンクさせた上でデータをご持参ください。
3. 上記の映写トラブルによる時間延長は認めません。ご自身の発表時間内にすべてが終了するように、対処してください。また、パソコンの設定等、取り扱いを熟知しておいてください。

※上記に反するメディアでのトラブルに関しましては、本学会では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

6) 一般演題発表〈ポスター展示〉

1. タイトル：演題名、所属先、演者名をご用意ください。演題番号は事務局にて準備し、左上部に添付しておきます。
2. 本文：縦125 cm × 横85 cm とします。下記の作成基準のように A3 サイズ8枚(縦4枚、横2枚)にまとめることが可能です。
3. 展示：学会当日3月2日(日)の8:30～9:00間にポスター会場(1F 情報プラザ)にて受付を済まされた後、所定の場所へお貼りください。押しピンは会場に用意しております。
4. 撤去：ポスターは学会終了後、17:00までに各自で撤去し、お持ち帰りください。17:00までに撤去されない場合には、勝手ながら事務局にて処分させていただきますのでご了承ください。
5. 発表：
 1. 発表時間は3分、討論時間は3分(時間厳守)です。
 2. 発表者は、13:00までに各ポスター前で待機し、座長の進行に従ってください。
 3. 質問、コメントの採否は座長にお任せください。



7) 座長の先生へのお願い

1. 各セッションの進行は座長にお任せいたします。時間は厳守してください。
2. 担当セッション開始10分前までに「次座長席」にご着席、またはポスター会場(1F 情報プラザ)受付にお越しください。

演題発表をされる皆様へ

患者様のプライバシー保護にご配慮をお願い申し上げます。

以下の点などにご留意していただき、各自の責任にてご注意をお願い申し上げます。

- 1) 患者様個人の特定可能な氏名、入院番号、イニシャルまたは「呼び名」は記載しない。
- 2) 患者様の住所は記載しない。但し、疾患の発生場所が病態等に関与する場合は区域までに限定して記載することを可とする。(鳥取県、米子市など)
- 3) 日付は、臨床経過を知る上で必要となることが多いので、個人が特定できないと判断される場合は年月までを記載してよい。
- 4) 既に他院などで診断・治療を受けている場合、その施設名ならびに所在地を記載しない。但し、救急医療などで搬送元の記載が不可欠の場合はこの限りではない。
- 5) 顔写真を提示する際には目を隠す。眼疾患の場合は、顔全体が分からないよう眼球のみの拡大写真とする。
- 6) 症例を特定できる生検、剖検、画像情報に含まれる番号などは削除する。
- 7) 以上の配慮をしても個人が特定化される可能性のある場合は、発表に関する同意を患者様自身(または遺族か代理人、小児では保護者)から得るか、倫理委員会の承認を得る。
- 8) 症例に関連した規定(「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(文部科学省、厚生労働省及び経済産業省)(平成13年3月29日)など)を遵守する。

日本褥瘡学会誌に本地方会の抄録を掲載します。抄録本文は200字程度、演題名・所属・演者名(共同演者も含めて)を含めたすべての合計が400字以内である必要があります。これに当てはまらない発表演題は、訂正したものを3月31日(月)までに運営事務局までE-mailでお送りください。

E-mail : jspucs14@act-p.net

日本褥瘡学会中国四国地方会歴代会長

第1回	森口 隆彦	川崎医科大学 形成外科	倉敷市	2001年2月3日
第2回	田中マキ子	山口県立大学大学院 健康福祉学研究科長	山口市	2002年1月26日
第3回	中西 秀樹	徳島大学医学部 形成外科	徳島市	2003年1月18日
第4回	倉本 秋	高知大学医学部 総合診療部	高知市	2004年3月6日
第5回	森口 隆彦	川崎医科大学 形成外科	岡山市	2005年3月12日
第6回	茂木 定之	廣島総合病院 形成外科	広島市	2006年3月4日
第7回	河村 進	四国がんセンター 形成外科	松山市	2007年3月4日
第8回	坂井 重信	鳥取県立中央病院 形成外科	鳥取市	2008年3月2日
第9回	山本由利子	高松赤十字病院 医療社会事業部	高松市	2009年3月8日
第10回	村上 隆一	山口県立総合医療センター 形成外科	山口市	2010年2月28日
第11回	安楽 邦明	松江赤十字病院 形成外科	松江市	2011年3月6日
第12回	青木 久尚	財団法人 倉敷中央病院 形成外科	岡山市	2012年3月4日
第13回	中西 秀樹	徳島大学医学部 形成外科	徳島市	2013年3月10日
第14回	中山 敏	鳥取大学医学部 形成外科	米子市	2014年3月2日
第15回	中川 宏治	高知赤十字病院 形成外科	高知市	2015年3月8日予定
第16回	岡 博昭	笠岡第一病院 形成外科	岡山市	2016年予定

日本褥瘡学会中国四国地方会 世話人

26名(50音順 敬称略)

平成25年11月現在

代表世話人	中西 秀樹	
監事	倉本 秋	
	栗原 富江	
世話人	青木 久尚	倉敷中央病院 形成外科
	安楽 邦明	松江赤十字病院 形成外科
	岡 博昭	笠岡第一病院 形成外科
	貝川 恵子	川崎医科大学附属病院 褥瘡対策室
	上地 一平	細木病院 外科
	河村 進	四国がんセンター 形成外科
	倉本 秋	高知医療再生機構 理事長
	栗原 富江	山陽学園大学看護研修センター WOC 教育課程
	小坂 義樹	寺岡記念病院 整形外科
	小林 一夫	愛媛県立中央病院 形成外科
	小山恵美子	倉敷平成病院 看護部
	茂木 定之	広島国際大学 リハビリテーション支援学科
	田中マキ子	山口県立大学 看護栄養学部
	田中 嘉雄	香川大学医学部 形成外科
	中川 宏治	高知赤十字病院 形成外科
	中西 秀樹	徳島大学医学部 形成外科
	中野真寿美	広島市立安佐市民病院 看護部
	中山 敏	鳥取大学医学部 形成外科
	橋本 一郎	徳島大学医学部 形成外科
	政田 美喜	三豊総合病院 看護部
	三谷 和江	徳島大学医学部附属病院 看護部
	村上 隆一	山口県立総合医療センター 形成外科
	森口 隆彦	川崎医療福祉大学 感覚矯正科
	森田 能子	岡山リハビリテーション病院 リハビリテーション科
	山本由利子	高松赤十字病院 看護部
	吉田 松子	倉敷中央病院 看護部
事務局幹事	橋本 一郎	徳島大学医学部 形成外科

日 程 表

2014年 3月 2日(日) 米子コンベンションセンター

メイン会場 1F 多目的ホール		ポスター展示会場 2F 多目的ホールホワイエ	機器展示会場 1F 多目的ホール ホワイエ	世話人会会場 3F 第2会議室
7:30	7:30~			
8:00				8:00~9:00 世話人会
		8:30~9:00 ポスター貼付		
9:00	9:00~9:05 開会挨拶 9:05~9:40 一般演題(口演) I 基礎疾患と皮膚障害 座長: 赤松 順 近森病院 形成外科 栗原 富江 山陽学園大学 看護研修センター	9:00~16:00 ポスター 展示・閲覧	9:00 ↓ 16:00 機 器 展 示	
10:00	9:45~10:35 特別講演 I 地域医療からみた褥瘡という病 演者: 谷口 晋一 鳥取大学医学部 地域医療学講座 司会: 中川 宏治 高知赤十字病院 形成外科			
11:00	10:45~11:35 特別講演 II 人に役立つロボット作りを目指して 演者: 高本 陽一 株式会社テムザック 司会: 中山 敏 鳥取大学医学部附属病院 形成外科			
12:00	11:50~12:40 ランチョンセミナー 難渋例、不具合例からみた陰圧閉鎖療法 演者: 岡 博昭 笠岡第一病院 形成外科 司会: 中西 秀樹 徳島大学医学部 形成外科 共催: ケーシーアイ株式会社			
	12:40~12:55 総 会			
13:00	13:00~13:40 一般演題(口演) II 局所管理・手術・医療関連機器圧迫創傷 座長: 篠山 美香 岡山医療センター 形成外科 田中 美佐子 鳥取県立中央病院 看護部	13:10~13:40 一般演題(ポスター) III 展示質問 ▲ 座長: 山根 陽子 鳥取赤十字病院 看護部		
14:00	13:45~14:35 特別講演 III 創傷と遺伝子・ゲノム 演者: 難波 栄二 鳥取大学生命機能研究支援センター 司会: 中山 敏 鳥取大学医学部附属病院 形成外科			
15:00	14:40~15:30 一般演題(口演) IV 褥瘡の予防・教育 座長: 草竹 兼司 島根大学医学部 皮膚科 伊藤 篤子 鳥取県済生会境港総合病院 看護部			
16:00	15:35~16:15 一般演題(口演) V 興味深い症例 座長: 安楽 邦明 松江赤十字病院 形成外科 藤井 香織 鳥取大学医学部附属病院 看護部			
	16:15~16:20 閉会挨拶	16:00~17:00 ポスター撤去		
17:00				

第14回日本褥瘡学会中国四国地方会プログラム

開会挨拶 9:00～9:05

一般演題(口演)Ⅰ [基礎疾患と皮膚障害] 9:05～9:40

座長：赤松 順 近森病院 形成外科
栗原 富江 山陽学園大学 看護研修センター

- I-1** 低栄養、身体的拘束による両側下腿外側部褥瘡及び拘束具による前腕創傷を認めたアルコール認知症の治療 5分
医療法人絃友会 福山友愛病院 精神科
○古賀 政比古 他
- I-2** 陰性症状、低栄養による在宅からの持込褥瘡(仙骨部、左踵部)を合併した若年統合失調症の保存的治療 5分
医療法人絃友会 福山友愛病院 精神科
○中村 摂子 他
- I-3** 胃瘻周囲に皮膚潰瘍を発生した患者の事例を通して 5分
鳥取市立病院
○漆原 聖子 他
- I-4** 男性の解剖学的形態に着目したもれにくい新しいオムツの開発 5分
鳥取大学 医学部 附属病院 形成外科
○陶山 淑子 他

特別講演Ⅰ 9:45～10:35

司会：中川 宏治 高知赤十字病院 形成外科

地域医療からみた褥瘡という病

谷口 晋一 鳥取大学医学部 地域医療学講座 教授

特別講演Ⅱ 10:45～11:35

司会：中山 敏 鳥取大学医学部附属病院 形成外科

人に役立つロボット作りを目指して

高本 陽一 株式会社テムザック 代表取締役

ランチョンセミナー 11:50～12:40

共催企業：ケーシーアイ株式会社

司会：中西 秀樹 徳島大学医学部 形成外科

難渋例、不具合例からみた陰圧閉鎖療法

岡 博昭 笠岡第一病院 副院長 形成外科部長

総会 12:40～12:55

一般演題(口演)Ⅱ [局所管理・手術・医療関連機器圧迫創傷] 13:00～13:40

座長：篠山 美香 岡山医療センター 形成外科

田中 美佐子 鳥取県立中央病院 看護部

- Ⅱ-1** 新しい創傷被覆材「モイスキンシート」を試みた褥瘡の8例 5分
医療法人絃友会 福山友愛病院 精神科
○塔野 由貴子 他
- Ⅱ-2** 当科における6年間の褥瘡手術症例の検討 5分
松江赤十字病院 形成外科
○前信 友梨 他
- Ⅱ-3** 笠岡第一病院における医療関連機器圧迫創傷の実態調査 5分
医療法人社団清和会 笠岡第一病院 看護部
○若狭 麗子 他

- II-4** 医療関連機器圧迫創傷の現状 5分
愛媛県立中央病院
○久保 美千代
- II-5** 手術室との連携による術中・術後の褥瘡発生予防対策 5分
市立宇和島病院 褥瘡対策委員会
○岩田 幸子 他

一般演題(ポスター) III 13:10～13:40

座長：山根 陽子 鳥取赤十字病院 看護部

- III-1** 除圧に対する意識調査 3分
医療法人社団 尾崎病院 一般病棟
○洞 弘美 他
- III-2** 手術室における褥瘡好発体位の現状と褥瘡予防の検討 3分
地方独立行政法人山口県立病院機構山口県立総合医療センター
○山口 亜紀子
- III-3** 褥瘡を伴う患者の退院支援の重要性 3分
～退院支援から在宅ケア、治癒までの流れ～
国家公務員共済組合連合会 吉島病院
○原 紀子 他
- III-4** 輸液製剤の血管外漏出により生じた皮膚潰瘍への対応 3分
岩国市医療センター医師会病院
○中藤 嘉人
- III-5** 頸髄損傷患者の効果的なポジショニング方法 3分
鳥取県立中央病院
○芝田 愛

特別講演 III 13:45～14:35

司会：中山 敏 鳥取大学医学部附属病院 形成外科

創傷と遺伝子・ゲノム

難波 栄二 鳥取大学 生命機能研究支援センター長
同 医学部附属病院 次世代高度医療推進センター長

特別講演

ランチョンセミナー

地域医療からみた褥瘡という病

演者：谷口 ^{たにぐち} ^{しんいち} 晋一 鳥取大学医学部 地域医療学講座 教授

学 歴

昭和60年 鳥取大学医学部卒業
平成4年 医学博士(鳥取大学)学位授与

職 歴

昭和60年～
鳥取大学医学部 第一内科(現、病態情報内科学)に入局
平成3年～4年
熊本大学医学部細胞遺伝部門 助手
平成6年～8年
NIH(米国立衛生研究所) 留学
平成10年～
鳥取大学医学部 病態情報内科学 助手
平成15年～
鳥取大学医学部 同講師
平成22年3月～
鳥取大学医学部 同准教授
平成22年10月～
鳥取大学医学部 地域医療学講座 教授

専門分野

地域医療
内分泌・代謝学(糖尿病含む生活習慣病全般)

所属学会

日本内科学会、日本内分泌学会(評議員)、日本糖尿病学会(評議員)、日本病態栄養学会、日本甲状腺学会(評議員)、日本プライマリーケア連合学会(代議員)、米国糖尿病学会他

専門医

日本内科学会認定医・認定専門医、日本内分泌学会認定内分泌代謝専門医・指導医、日本甲状腺学会認定専門医、日本糖尿病学会認定専門医・指導医、日本プライマリーケア連合学会認定医・指導医

その他

米子市介護予防システム研究会(ヘルスアップ2015研究会)委員 2006年度より
鳥取県糖尿病対策推進会議 委員 2012年度より
日本糖尿病学会中国四国支部 幹事 2012年度より
鳥取県東部保健医療圏地域保健医療協議会委員 2013年度より
鳥取県健康対策協議会・生活習慣病対策専門委員会 委員長 2013年度より

賞 罰

平成22年4月
鳥取大学「社会貢献賞」
～鳥取～江府 study～

日本は超高齢化社会を迎えるのと並行して、世代ごとに別々に生活するようになり高齢の独居や夫婦2人暮らしが増えている。2030年には全世帯の4割が高齢者世帯となり、そのうち7割が老々夫婦あるいは独居世帯となると予想される。この厳しい社会状況に対して医療だけでなく医療福祉を含めた総力戦が求められている。国は、システムとして介護保険制度を整え在宅医療に重点をおきつつあり、医療人材も地域で活躍できる総合診療医の育成をすすめようとしている。この中で褥瘡という病は、きわめて社会医学的な課題になっている。2010年の褥瘡実態全国調査では、訪問看護ステーションでの褥瘡有病率5.45%、推定発生率4.40%であり、2006年度調査時点よりも低下傾向を示している。施設別の分析ではNPUAPのステージ1・2が多いが、訪問看護のデータではガイドラインで提示されている2h毎の体位交換ができないために褥瘡リスクが上がっている。これから在宅医療がすすめばすすむほど、在宅での褥瘡管理の課題がクローズアップされると考えられる。また、施設外発生(持ち込み褥瘡)は介護老人福祉施設で深い褥瘡が半数を占めており、病院療養での褥瘡予防が重要である。介護を伴う高齢者住宅でも、医療職だけでなく介護職も、除圧や栄養管理など褥瘡の十分な知識をもっているか否かが問われるようになるだろう。訪問看護ステーションへの調査結果からは、使いたい薬剤が使えない、かかりつけ医が頼りない、褥瘡への知識が乏しい、被覆材などの経済的負担がきびしいなどの声があがっている。今後は、褥瘡対策として、介護力の乏しい状況でも対応できる新しい褥瘡予防技術の開発、かかりつけ医への褥瘡管理知識の啓発、専門看護師の育成など、技術イノベーション、医療介護システム、人材育成、経済的な支援、あらゆる側面からのサポートが必要となる時代が迫っていると思われる。褥瘡自体は、体表組織のダメージであるが、褥瘡はさまざまな社会的な背景要因が絡み合って生じる社会医学的な「病」であることを再認識してほしいと思う。

一般演題抄録

II-3 笠岡第一病院における医療関連機器圧迫創傷の実態調査

- 1) 医療法人社団清和会 笠岡第一病院 看護部
- 2) 医療法人社団清和会 笠岡第一病院 形成外科
- 3) 医療法人社団清和会 笠岡第一病院 栄養管理科

○若狭 麗子¹⁾、岡 博昭²⁾、仁科 真紀子¹⁾、山崎 恵¹⁾、三好 恵子¹⁾、水の上 かおり¹⁾、高橋 純子¹⁾、堀 みどり³⁾

2012年9月から2013年8月までの褥瘡院内発生33症例中、医療機器圧迫創傷は6症例であった。年齢・日常生活自立度の重症度に関係なく発生している。発生部位は頭部・顔面・側胸部など体圧分散寝具で予防が難しい部位が多く、原因として、長時間の手術が2件、NIPPVマスク装着による圧迫が2件、胸水穿刺後のガーゼによる圧迫1件、尿道留置カテーテルによる圧迫が1件であった。若干の文献的考察を加えて報告する。

II-4 医療関連機器圧迫創傷の現状

愛媛県立中央病院

○久保 美千代

第15回学術集会で医療機器による圧迫創を「医療関連機器圧迫創傷」として褥瘡と分け有病率・推定率を算出することになった。医療関連機器圧迫創傷の現状を知るためにH25年5月～H25年11月の褥瘡発生報告書を基に調査を行った。内訳としては体幹装具、血管留置カテーテル、経鼻経管用チューブなど20種類以上を認めた。調査期間中の褥瘡発生総数の約半数は医療関連機器圧迫創傷であった。今後、マニュアルの整備が必要である。

II-5 手術室との連携による術中・術後の褥瘡発生予防対策

市立宇和島病院 褥瘡対策委員会

○岩田 幸子、薬師寺 直美、平 寛子、山崎 初美、山下 美紀、中村 久美、白井 真由巳

平成22年度の外科・泌尿器科病棟での全身麻酔下の手術は399件であった。そのうち術後1週間以内の二重発赤を含む褥瘡が5件発生した。原因を分析すると、術中からの褥瘡予防対策が不十分と考えられた。そこで平成22年8月から、術前より同一圧迫部位へのフィルム剤貼用やマットの選択をおこない、その内容を手術室から病棟に申し送ることで術後の褥瘡発生予防に繋がり、平成24年度には褥瘡発生が0と減少したので報告する。

IV-2 褥瘡予防に関する A 病院看護職員の意識調査と活動状況の課題

中国電力株式会社 中電病院 褥瘡対策委員会

○飯田 昌味、堀 かをる、相原 忍、堀 郁子

当院では、褥瘡発生0を目標に褥瘡予防に取り組んでいるが、年間6～8件の発生が続いている。発生原因にはリスクの見落とし等があった。そのため、看護職員の褥瘡予防に関する意識の向上や褥瘡予防における活動状況の実態を知り改善が必要と考えた。そこで、看護職員に褥瘡予防に関する意識と活動状況について調査を行なった。看護職員の意識と活動状況、褥瘡対策マニュアルの活用状況から、今後の課題を明確にしたので報告する。

IV-3 重症心身障害児・者への全身用体圧測定器を用いた褥瘡予防対策の取り組み

鳥取県立総合療育センター

○山崎 さと子、山本 智子、野口 悠子、板谷 純子、足立 裕季子、杉岡 智子、片桐 浩史

当センターの褥瘡対策チーム会では、これまで座圧測定器による客観的データを褥瘡予防・治療に役立ててきた。平成25年に全身用体圧測定器を購入したことで、重度の変形・拘縮および医療的管理のある方に対し、全身の評価が正確かつ簡便にできるようになった。職員や家族への視覚的フィードバック、問題点の検討も行いやすく、日々の姿勢管理を見直すことでオムツ・洗浄剤等の検討などにも目を向けた褥瘡予防対策につながっている。

IV-4 仙骨部褥瘡に対するチームでの取り組み

独立行政法人国立病院機構 米子医療センター

○古志 知春、山本 修

今回、褥瘡治療・ケアをチーム間で取り組んだ結果、治癒に至った症例を経験したので報告する。症例は80歳代女性。2013年4月、巨大ポケットを有した仙骨部褥瘡治療目的にて入院。局所陰圧閉鎖療法などの治療と並行し、褥瘡対策チームの一員である理学療法士や栄養士の介入のもと、病棟スタッフと共に褥瘡ケアを行った結果、治療開始後210日目に治癒し、2013年11月自宅退院に至った。

IV-5 体圧分散マットレス選択基準改訂の取り組み

鳥取大学医学部附属病院看護部

○松原 純子、青戸 絵理、藤田 絵梨香、松本 知美、木谷 加代子、藤井 香織、中村 真由美

A 病院では独自に体圧分散マットレス選択基準を作成している。昨年度、日常生活自立度 B の患者にマットレス不適合による褥瘡発生が6件、さらに選択基準の未使用があった。今回リンクナース会で臨床現場での選択基準に関する問題点を明らかにし、改訂を行った。選択基準改訂後、日常生活自立度 B の患者と選択基準を使用した看護師を対象にアンケート調査を行い、結果「使いやすい」が72%、調査期間中の褥瘡発生は0件であった。

日本褥瘡学会中国四国地方会事務局

〒770-0042 徳島市蔵本町2-50-1
徳島大学 形成外科学教室内
日本褥瘡学会中国四国地方会事務局
TEL：088-633-7296 FAX：088-633-7297
E-mail：keisei@basic.med.tokushima-u.ac.jp

会員管理事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保二丁目4-12
新宿ラムダックスビル10階
株式会社春恒社 学会事務局
TEL：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176
E-mail：jspu-cyugokusikoku@shunkosha.com

